

新国立劇場演劇研修所



NNNY

ドラマ・スタジオ



新国立劇場

「自立」する俳優のために



朗読劇「少年口伝隊一九四五」

俳優の仕事には、決して終わりはありません。人間をどこまでも描き続けていくのです。

戯曲からあらゆる要素を汲み上げ、自らの身体と声と心を使って、与えられた一つの役柄を築き上げては壊す作業を何度も繰り返します。稽古場という実験の場所で、演出家や相手役に対して自分のせりふや動きを何度もプレゼンテーションするために、自らの身体、声、感覚の可能性を知り、その場で起こるいくつかの瞬間を発見し、掴み取ることのできる能力を鍛えておかねばなりません。そして、ドラマの言葉とその状況とに正面から向き合うには、限りなく探求を続ける精神と、それに必要な自由に動く身体が必要となります。

また、俳優は自ら主体的であると同時に、いかに周りの環境との関係性をもてるかが問われます。自分のせりふをどう発語するか、自分をどう見せるかということだけに執着するのを止め、相手の言葉をしっかりと聴く能力をもち、自分がそこにどう存在するかを、他者から見つけ出すのです。舞台はつねに、そこで起こることだけが劇的な時間を生むのですから。

人間も世界の在り方もそうですが、異質なものがそこでぶつかり合ってこそ、違った新たな可能性の瞬間が生まれるということをし、しっかりと知る必要があるでしょう。そのためには、世界、歴史、人間、そして現在という時代の流れと向き合い、俳優としての強い欲望と情熱をもって舞台に立たねばなりません。だからこそ、今までの自分と違った自分に出会うためのレッスンが持続的に必要となるのです。

研修では、①演技、②ムーブメント、③ヴォイスの三つの基礎訓練を重ね、これらを俳優の演技として表

現できるステップにまで高めていきます。人間のあらゆる可能性に向かって、感情を全身で提示することを学ぶのです。と同時に、言葉は世界を認識する枠組みであるということを知り、言葉のもつ可能性を、多角的な視点から学びます。それは、自らが「俳優とは何か」を考えるということでもあるのです。

しかし私達が学ぶのは、有用な知識と技術だけを習得するためではありません。自分がこの世界でただ一人のかけがえのない存在であるということを確認し、自分という一個人と出会うことが出発点となるでしょう。ただ受け身のままに教えられるという関係ではなく、自分で自分の身体のなかから、いくつもの隠された才能と出会い、自ら鍛え育てるということを学ぶのです。「場」が「人」を育て、「人」が「場」を生かしていきます。そのために、それを支える「しくみ」=「場所」が必要になります。「学ぶ」ということは、「人間をどうする」「社会をどうする」ということにつながっていると思うのです。

答えは決して一つではないからこそ、芸術は新しく生まれ変わり、常に時代に息づく存在となります。演劇という人間の芸術を通して、世界、現在、そして人間について、たくさん語り合ひましょう。



演劇研修所長
栗山民也



修了公演（左より）第一期生「リハーサルルーム」 第二期生「珊瑚礁」 第三期生「友達」 第四期生「美しい日々」

演劇研修所の3年間

新国立劇場演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある身体をそなえた次世代の演劇を担う舞台俳優の育成を目指しています。国内外の演劇教育の専門家や、第一線の演劇人による授業が組まれています。



START!!

STEP
1

研修 1 年次

俳優としての基礎固め —演劇に主体的に関わる—

3年間の 研修修了

俳優の仕事が
ここから始まる

STEP
3

研修 3 年次

役柄を確立する

—舞台人として働く—

3年次は、俳優としての実践的な舞台実習を行います。環境の異なる空間での公演を通じて、幅広い演技を身につけるとともに、劇場スタッフなどとの関わりの中で、プロの俳優としての自覚を養います。

3年次の舞台実習

試演会(年2～3回)

朗読劇

修了公演

STEP
2

研修 2 年次

キャラクターを創造する

—俳優としての出発—

2年次には、「シーンスタディ」を中心的な課題とします。さまざまな役柄に挑む過程で、俳優として「心」「身体」「声」を自由に使ってキャラクターを創造すること、相手役が存在を意識することを習得し、戯曲の提示する世界を全体として把握する力を養います。また、一つの演技法に固持せず、日本の伝統芸能を含むさまざまな演技法を学習することにより、現代の多様なスタイルの演劇に対応でき、演出家の要望に応えられる訓練も行います。「声と演技」「身体と演技」「歌唱と演技」などの基礎科目は、研修生のレベルや課題に応じた個別トレーニングに発展し、戯曲分析、演劇史、理論、芸芸(所作、アクション、歌唱など)の授業も「シーンスタディ」と連携された内容で構成されます。

1年次は、さまざまなバックグラウンドを持った研修生たちが、研修所で学ぶための共通の方法を身につけ、演劇についての認識を新たにする期間です。「声と演技」「身体と演技」「歌唱と演技」「即興」など、身体と言語をつなぐ基礎的な訓練に力点をおきます。また、あわせて「朗読」「アクトスタディ」により、戯曲や言葉に対する理解力を高め、言葉が俳優の身体を通して台詞として実体化されるプロセスを学びます。また、劇作家、評論家、舞台技術者による演劇史や理論のレクチャーによって、演劇の本質についての思考能力を鍛えます。

1・2年次の主な授業

アクトスタディ・シーンスタディ

声と演技・身体と演技・歌唱と演技・日本語の発語

所作・日本舞踊・ダンス・アクション・和楽器

ボディコンディショニング

戯曲分析・演劇史

修了生から

1 期生

高島 玲(ジェイ・クリップ)

私にとって、研修所は出会いの場であり、何より演技をすることに対する価値観を変えてくれた場所でした。研修所に入る前と今では役者という職業を何倍も素晴らしく感じるということです。赤ちゃんみたいに体を委ねてスポンジみたいに吸収していたあの時間は、本当に貴重に思います。

前田 一世(青年座映画放送)

切手ではなくハガキ。メールよりは握手。試験じゃなく「試練」に近く。ホッとひと息というよりも、攻めの深呼吸。新・宿に、初・台にと、新品初物縁起がよろしい土地で、多くの時を過ごせる3年間です。

2 期生

深谷美歩(ノックアウト)

新国立の研修所に入ったからってプロの役者としてやってけるかなんてわからない。ここを卒業したからっていい役者になれるかなんてわからない。保証なんて何もない。どこにいても自分次第。でも卒業して3年たった今、本当に研修所で学べてよかったと思った。こんなじゃプロとしてやっていけないと言ってくれる演出家があった。失敗できる場所だった。

吉田妙子(放映新社)

研修所は、私にとって料理学校のようなところでした。身体や声のことからひとつひとつ、繰り返し、向き合っていく。食材と向き合うように、丁寧に丁寧。鍋を焦がしたり、調味料を入れすぎたりしながらも、3年間で、一番大切な核を、学んだような気がします。お客様にお腹いっぱいになっていただける作品を作るため、その修行は卒業してからもずっと一人で続けるのだけど、揺るぎない核と同期という仲間を得た大きな3年間でした。

宇井晴雄(FMG)

研修所へ入ったのは25歳の時、自分の役者としての足場を見つめ直したいと思った頃でした。研修所は、俳優にとって重要と思われる素地を鍛える場だったといえます。他者や自己への興味を深めることや、そのために有効な手段など、様々な方法を経験する機会が詰まっています。それまでの活動だけでは、出会うことのなかったであろう人々や考え方、経験が視野を広げてくれました。

西原康彰(ミズキ事務所)

僕にとっての3年間は、それまでもっていた「演劇」の価値観が変わり、芝居って面白いんだと思えたこと。そして、フルタイムの授業を通して芝居だけを集中して考え、学んだ時間は本当に貴重だったと思う。演技のトレーニングは訓練によって磨かれ、基礎があるからこそ、現場を通して役者としての自分の個性の色を濃くしていくことができると思う。

3 期生

熊坂理恵子(芹川事務所)

魅力的な人や作品と出会うチャンスが溢れに溢れた場所でした。本当にたっくさんの人たち、そして、本当にたっくさんの種をいただきました!! その出会いや種は、確実に今の私の人生に繋がっています。人との出会いこそが自分を成長させてくれるんだなぁと今改めて感じます。感謝です!

金 成均(スターダス・21)

これから研修所を受けようと思ってる人に向けて自分が研修所について言えることはありません。研修所とはそういう所です。まだ入っていない人にはわからないその絶対的なわからなさの内に研修所の魅力と意義があると思います。ガイダンスや履修内容を文章で読んだだけでそのすべてがわかるようならその研修所が大したことないか、その人がすでに大した人かのどちらかだと思います。研修所は色んなデータを比較して吟味し決めてはいる所ではないと思います。自分のカンを頼りに飛び込む所です。激しく欲望し飛び込んでください。

武田 桂(ミズキ事務所)

研修所に入ると、今の演劇界ではなかなかお目にかかれないような、レアな芝居に取り組みチャンスに巡り合う。それらの多くは正直面白いものではない。古い時代のものだったり、テーマが硬いからだ。しかしそういった作品は「人間の本質」に迫る難しさ、そしてその深遠さを教えてくれる。これは質の低いギャグや陳腐なストーリーに終始するような芝居では、決して味わう事のできないものだ。

4 期生

趙 栄昊(長谷川事務所)

僕は2011年の3月に研修所を修了しました。まだ1年も経っていないのですが、研修所はとても恵まれた環境で舞台を経験できる場所だったな……と、最近改めて実感しています。プロの現場に出て、あそこまでたくさんの方をサポートしてくれる場所はなかなか無いと感じています。演劇研修所は、みなさんが役者として、人として、成長するために必要なことを必ず与えてくれる、そんな場所だと思います。

()は所属プロダクション

NNTアクターズ

演劇研修所は、修了生の技術と経験を深め、さらに俳優としての研鑽と活躍の場を提供するために、“NNTアクターズ”を設けています。毎年、修了する研修生の中から最大5名が登録され、研修所は、新国立劇場演劇の主催公演や外部のプロデュース公演などへの出演やスタッフとしての参加ができるように、積極的な支援を行います。

講師から

西川信廣



シーンスタディ

俳優は言葉を使って表現するプロです。プロとして劇作家の言葉に生きた活力を吹き込む為には、その為の体と心を磨くことは絶対に必要です。同時に、台詞の背後にある役の心や、相手への想いを読み解き、相手役との関係性をどのように作り上げるかが、私は俳優の仕事だと思っています。私の授業では、テキストを使い、実践的にそのことを一緒に探って行きます。同時に、俳優として、演劇人として、時代をどう捉え、何を考え、どう生きたいのかを演劇を通して考えて行きたいと思っています。

池内美奈子



声と演技

声というのは自分のアイデンティティです。この授業では、身体の使い方、呼吸の使い方、発声、共鳴、声の幅、発語の筋肉などをみることに同時に、自分の欲求は何かを掘り下げ、まわりの人とどう関わっていききたいのか、世の中にどう関わっていききたいのか等を実践で明らかにしていきます。自分の見たくなかったところも見ますが、自分の知らなかった自分にも出会います。戯曲の台詞以外にも、童話、小説、詩、政治スピーチを題材に使います。

ローナ・マーシャル



身体は喋る "Body Speaks"

1年次には、演技をするために不可欠な基本的要素、「感知する」「反応する」「エネルギーを認識する」「具体的に想像する」「的確に読み取る」「フォーカスしているか」などを体験していきます。そして、2年次には、戯曲から浮かび上がる身体的、心理的な個性、対人的な要素を探り、戯曲の世界観に焦点をあてて、一つひとつの台詞からキャラクターを作り上げていくことをシーンスタディで実践します。

宮田慶子



シーンスタディ

実際に戯曲の一部分と取り組むことによって、俳優として台本と向かい合い、演技を組み立てて表現していく過程を、ひとつひとつ具体的に体験していきます。他の授業で修練を重ねた結果を、実際の稽古の現場にどう反映させていくかという実践・検証の場でもあります。台本を読み解き、自分の頭脳と肉体と感性と心をすべて使って、表現に結びつけていくプロセスを修得していきます。

大笹吉雄



日本演劇史

わたしが担当しているのは、新劇を中心とする近現代の演劇史である。新国立劇場の演劇部門はそもそも新劇のために創設されたわけだから、深い関わりがある。が、「新劇」という用語自体にも誤解があって、使用するのを敬遠する傾向がないではない。その意味では誤解を解くための講座とも言える。歴史と言えば博物館に捉えられがちだが、今も生きていると感じてほしく、常にこのことを念頭に置いての話にしたいと思っている。

河合祥一郎



戯曲研究

研修所が定めた戯曲必読リストに基づいて、皆が読んだ戯曲を題材に議論をし合ったり、実際に声を出して読み合わせをしたりして、作品に対する理解を深める。単なる読者としてではなく、役者として戯曲を読むとはどういうことか、その面白さを十分認識してもらうことを目的として、さまざまな戯曲に対応する即戦力を身につけてほしい。役者である以上は、多くの戯曲に親しんでいるのは当然であると自覚してもらいたい。



西洋演劇史

あくまで役者の視線から、ギリシア演劇から現代演劇まで演劇の形態や劇場の変遷をたどりつつ、役者と客との関係や戯曲のありようの変化を概観する。「演劇」とひとくくりされるジャンルのなかにも、多様な演劇があったことを知ることで、これから舞台上に立つための実践力を支える知識を培う。舞台での演技と映画・TVでの演技との違いなどの根本的な問題も、この講座によって理解される。知は力なりと実感してほしい。

所長
栗山民也

副所長
西川信廣

ヘッドコーチ
池内美奈子

アソシエイト・ディレクター
田中麻衣子

講師 (平成23年度)

渥美 博
あめのもりようこ

石本興司
伊藤和美

伊藤雅子
大笹吉雄

岡本光幸
垣ヶ 原美枝

鐘下辰男
亀山ゆうみ

河合祥一郎
河野有紀子

北 則昭
杵屋勝芳壽

木村早智
鍛田かおる

黒岩 亮
古城十忍

児玉竜一
ジム・チム

仙波清彦
高泉淳子

橋本佳子
花柳千代

花柳太郎
花柳千慶

樋田慶子
ポール・フェリントン

ローナ・マーシャル
光瀬名瑠子

宮田慶子
山下 悟

柚木佑美

スタジオ・サポート委員

大笹吉雄
河合祥一郎

宮田慶子

修了生は新国立劇場の公演に出演しています

今後の活躍にご期待下さい

公演年月 | 「公演名」 | 出演修了生 | ①=1期生、②=2期生、③=3期生、④=4期生

2007.10月

三つの悲劇 ―ギリシャから Vol3

『異人の唄 ―アンティゴネー』

作 | 土田世紀 演出 | 鐘下辰男
野口俊丞① 前田一世①

2008.5月

『オットーと呼ばれる日本人』

作 | 木下順二 演出 | 鶴山 仁
北川 響① 古河耕史①

9月

『近代能楽集『綾の鼓』』

作 | 三島由紀夫 演出 | 前田司郎
内田亜希子① 岡野真那美①

12月

『イリュージョン・コミック ―舞台は夢―』

作 | ビエール・コルネイユ 演出 | 鶴山 仁
大樹 桜① 窪田壮史① 三原玄也①

2009.10月

『ヘンリー六世』三部作

作 | ウィリアム・シェイクスピア 演出 | 鶴山 仁
内田亜希子① 古河耕史① 前田一世①

「ヘンリー六世」



2010.3月

『象』

作 | 別役 実 演出 | 深津篤史
阿川雄輔②

4月

修了生のためのサポートステージ
ケ・ウエスト

『西埠頭 Quai Ouest』

作 | ベルナル・マリ・コルテス
演出 | モイーズ・トゥーレ
小泉真希① 高島 玲① 二木咲子①
北川 響① 窪田壮史① 古川龍太①
滝 香織② 宇井晴雄② 角野哲郎② 西原康彰②

2011.1月

『わが町』

作 | ソーントン・ワイルダー 演出 | 宮田慶子
宇高海渡③

「雨」



6月

『雨』

作 | 井上ひさし 演出 | 栗山民也
北川 響① 深谷美歩② 吉田妙子② 西村壮悟②
青木 花③ 金 成均③ 長本批呂士③
斉藤まりえ④ 仙崎貴子④ 趙 栄昊④

9月

マンスリー・プロジェクト リーディング公演

近代能楽集『邯鄲』

作 | 三島由紀夫 演出 | 宮田慶子
河合杏南① 阿川雄輔② 角野哲郎② 西村壮悟②
渡辺樹里③ 斉藤まりえ④ 田嶋真弓④
日沼さくら④ 今井 聡④ 有汰④

11月

『天守物語』

作 | 泉 鏡花 演出 | 白井 晃
岡野真那美①

「天守物語」



「わが町」



研修生募集概要

研修期間

3年間 原則として月～金 10:00～18:00

募集人数 12名程度

応募資格

1. プロフェッショナルな俳優としての舞台活動を目指していること
2. 高等学校卒業もしくは同等の資格を有すること
3. 入所時に満18才以上満30才以下であること
4. 心身共に健康であること
5. 外国籍の人の場合、日本語が理解できること
および研修期間中の日本国滞在許可が取得できること

新国立劇場運営財団 研修主管

〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1

TEL.03-5351-3011(代) <http://www.nntt.jac.go.jp/training/drama>

NNTドラマスタジオ：芸能花伝舎内

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30

TEL.03-5909-3076

